

令和6年11月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	5 議席 番号	6 氏名	中 野 健太郎 議員	1 / 1
発言項目		要 旨		答弁者
1	富士宮観光でもっとお金を使ってもらうために	<p>富士宮市における観光交流客数は令和2年から流行した新型コロナウイルス感染症の影響で大幅な減少があったが、その後回復傾向にあり、令和5年度には前年度比108.9%の約495万人を記録した(「静岡県観光交流の動向」より)。</p> <p>また、令和5年度と同調査によると、県内旅行消費額は、前年度比1,087億円増の7,890億円で、最多は土産品・買い物代の2,068億円となっている。</p> <p>第4次富士宮市観光基本計画によると、富士宮市を訪れる入込客1人当たりが市内で消費する額は、日帰り旅行者で約3,700円、宿泊旅行者で約8,500円となっており、まちなかの観光で「入込客の周遊・消費が少なく、訪れた顧客の周遊滞在を促し、消費を喚起すること」を「観光振興に求められていること」に掲げている。そこで以下、質問する。</p> <p>(1) 特に富士山夏季登山シーズン観光客の満足度を高め、消費の喚起を促す施策としてJR富士宮駅に期間限定を含めた土産物売り場を設置することについて。</p> <p>(2) 入込客数が低下する冬場の振興策として、高速バス富士宮～東京線の日帰り観光可能な時間帯の運行を再開するよう、事業者に要望することについて。</p>		市長 副市長 教育長 関係部長
2	コミュニティ・スクールを成功させるための応援を!	<p>コミュニティ・スクール(以下CS、学校運営協議会制度)が、令和7年度から富士宮市内で本格実施される。学校と地域住民が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための仕組みであり、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことが求められている。そこで、CSの成功には市教育委員会、市長部局の協力が必要と考え、以下質問する。</p> <p>(1) 新年度開始時又は年度内にCSをスタートする小中学校は何校、何団体あるのか。</p> <p>(2) CS開始時と運営において、市教育委員会はどのような支援体制をとっていくのか。</p> <p>(3) 「富士宮市公立学校運営協議会規則」では、各CSの委員は10人以内、委員1人当たりの予算6,000円としているが、複数校で1つのCSを組織するケースを考慮して、融通を利かせたルールにすべきではないか。</p> <p>(4) 各学校における地域学校協働本部の活動予算の縮減が懸念される。この理由として、決められた予算を年々増加する地域学校協働本部の参加校に分配しているためと考えられる。「社会総がかりで、こどもを育む体制づくり」というCSの提言を実現するためには、これまでの地域学校協働本部への予算措置を再考するべきと考えますが、いかがか。</p>		市長 副市長 教育長 関係部長